

第66回

会社訪問

富山科学工業株式会社

会社プロフィール

代表者：代表取締役 富山裕明

所在地：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-10-7

TEL：03-3664-0261 FAX：03-3667-1829

設立：1947年5月（創業：1886年）

資本金：1,000万円

従業員：20名

事業内容：理化学機器・分析機器・環境計測機器の販売、研究用設備の販売、プラスチックおよびガラス容器の販売、ろ過機の製造・販売、ソフトウェアの開発・販売

URL：<http://www.tknet.co.jp>



富山科学工業（株） 代表取締役 富山 裕明 氏へのインタビュー

聞き手：山口美奈子（広報委員） 白濱康彦（事務局参事）

（編集協力：クリエイティブ・レイ株）

総合理化学商社として新しい時代に臨む “150年の歴史”を誇る理化学機器の草分け企業

— 御社の会社概要を拝見すると、創業は明治19年、1886年。理化学機器を扱う企業としては草分け的存在になるかと思いますが、分かっている範囲で創業当時の様子などをお聞かせいただけますか。

そうですね、会社概要などには創業明治19年と書いているのですが、実を言うと、本当のスタートはもっと古く、維新史上に一場の悲劇を演じた京都伏見の寺田屋事件が起きた文久2年、1862年にさかのぼります。

まず、江戸末期に理化硝子を最初に扱いはじめた加賀屋久兵衛（皆川久兵衛）という人物がいて、その弟子に新井忠太郎という人がいました。暖簾分けされ新井屋として商売を始めたのが文久2年。その新井屋に弊社初代、富山栄吉が弟子入りし、その後新井忠太郎の娘と結婚いたしました。その事業を継承し新井屋富山商店としたのが明治19年ということになります。

つまり、当社が現在ある場所で、理化製品の販売という同じ商売が始まったのが文久2年。そこから数えると来年はちょうど150年、富山という名前を掲げてからは今年で125年ということになります。



初代 富山栄吉



大正8年 中央左から3人目 初代 富山栄吉



日本橋区大伝馬塩町 富山商店

— 明治時代と今とでは商売の環境が大きく異なると思いますが、当時はどのような商いをされていたのでしょうか。

理化学および医療用硝子の製造、販売をしていたそうです。この日本橋本町には今でも多くの製薬メーカー本社がありますが、これは江戸幕府が本町薬種問屋組合を許可したことから始まります。そうした薬種問屋に、ガラス壺の製造販売を始めました。明治に入りお客様が問屋から製薬メーカーへと変わるとともに、天秤や理化学の検査器とかを扱うようになっていったようです。

戦災で焼けてしまったりして、当時の資料はほとんどありませんが、明治や大正期に作ったカタログが残っていて、扱っている商品や工場の様子を知ることができます。

— 大正時代の本などを拝見すると、製品カタログになっていて、ドイツ製の理化学機器をイラストで紹介していたり、ガラスを^ハリ、フラスコをコルベンと書いていたり、興味深いですね。工場も広大な敷地に建っていて、当時の盛況振りがしのべれますが。

年配の先生方がコルベンと言ったりするのを聞いたことはありますが、今では、コルベンと言っても、それは何ですか？と聞き返されるだけです。ね。

工場に関しては、この日本橋本町に第1工場があり、昭和通りからこの本社がある一帯が敷地だったようです。それと深川や向島にも第3から第6工場があったそうです。

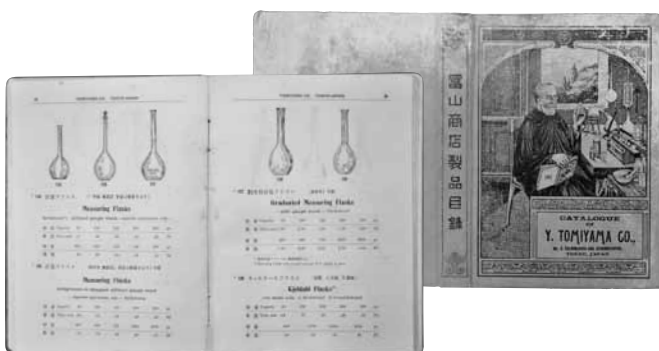
しかし、初代から数えて私で5代目なのですが、祖父が昔のことを語らなかったこともあり、父も私も、古いことはほとんど聞いていないのです。



深川第5・6工場



深川第5・6工場



大正時代の製品カタログ



富山商店ガラス工場内風景 (大正時代)

— お話を現代に移したいと思いますが、扱っている製品を見ると、理化学機器、分析機器、環境計測機器、研究用設備、プラスチックおよびガラス容器、ろ過機などとなっていますが、主な事業をご説明いただけますか。

現在のメインの業務は、理化学機器と理化学消耗品の販売となっています。割合では理化学機器は50%、容器20%、環境計測機器20%、ろ過機10%といったところです。

— ろ過機には多段式ろ過機、単板ろ過機、フィルタープレス、カートリッジフィルターなどがあり、自社ブランドと伺っていますが、いくつかの製品の特徴、あるいは主にどのようなところに納めているのか、教えていただけますでしょうか。

ろ過機は弊社で設計し、協力工場で製造し、自社ブランドとして販売しています。納めているのは製薬や化粧品、飲料メーカー、そして水の充填会社などです。余談になりますが、今年3月の大地震のすぐ後、その関係でPETボトル入りの水を分けてもらうことができ、東京都に50ケース、中央区の幼稚園に20ケースを寄付させていただきました。弊社社員希望者には販売し、売り上げは科学機器協会とガラス製品協同組合に寄付させていただきました。

容器については医薬用に特化しており、納入先はほとんどが製薬会社です。弊社は古くから医薬用のガラス容器を作ってきましたが、やがて樹脂が出てきて、昭和55年ぐらいになると、ガラス容器と樹脂の容器の割合は半々、昭和60年にはガラス容器はほとんどなくなっていました。

環境関連では大気測定から排水処理までいろいろ



とやっており、環境測定機器は、メーカーと協力しつつ、弊社で一括納入できる体制になっています。この分野の当社の強みとしては、メーカーにはなかなかできない部分で、さまざまな付属品を柔軟にコーディネートし、お客さまに納められるところでしょうか。

— 東日本大震災の直後は、やはり混乱やご苦労もありましたか。

苦労ということはありませんでしたが、うれしかっことは、3月13日の朝、社員全員が定刻に来ていたことです。電車が止まっている地域の者や、液状化の被害が大きかった浦安の者もあり、会社に近い社員だけでも出社してくれればいいのかと思っていたのですが、全員揃っていました。

考えてみると、私が知っている昭和40年以降、結婚退社はありますが、社員は全員定年まで勤めています。その点で弊社は居心地のいい会社なのかとも思いますが、今回の震災を機に、社員に改めて感謝した次第です。

— 現在、会社として目標にしていること、あるいは経営の課題としていることがあれば、お聞かせいただけますか。

今、新しい事業を始めていて、経営計画にも盛り込んだのですが、川上と川下をつなぐことで新しい価値を提供し、安定して成長するという中期ビジョンを立てました。アソートメント力というか、単なる盛り合わせではなく製品企画まで踏み込むことによって、事業を伸ばして行こうというものです。

具体的には、弊社がろ過機を扱っていた関係で知り合った他の企業と協力し、ろ過機、タンク、コンベア、充填機などを組み合わせ、さらに製品の箱詰めやパレットに乗せるという作業までを含めた一連のプロセスを提供できるようにしました。

やはり規格品単体では価格競争に巻き込まれますので、機器を組み合わせることによって、販売数や売上を伸ばしていく必要があります。こうした形で、今は液剤やクリームの充填に取り組んでいますが、将

来的には半導体関係にも伸ばしていきたいと考えています。

そのため、本年度からコンベアメーカーなど異業種の企業や台湾のメーカー等と、お互いに売り買いをする契約を進めてきました。台湾では日本よりかなりコストを押さえて機器を作れますので、そういうところで周辺機器を作り、心臓部は日本で製造するといったことで、質を保ち、コストを抑えていこうと考えています。

— 御社の経営理念、あるいは富山社長の座右の銘などをお聞かせいただけますか。

弊社の経営理念としているのは「誠実と誇り」という言葉です。もともとなったのは、祖父が書いた家訓があり、その筆頭に書いてあった言葉です。

それと座右の銘と言えるかどうか分かりませんが、「大才は袖触れ合う他生の縁もこれを活かす」という言葉が好きです。これは柳生但馬守宗矩の言葉で、小才、中才と述べて、大才とは、というこの言葉が続きます。この柳生家家訓に出会ったのは大学時代で、当時、合気道をやっており、武道の本をいろいろと読んでいた中で印象に残りました。

本来は剣の教えですが、なんとなく江戸の商人の教えのような感じもあり、個人的に気に入っています。

— 武道の本を読まれていたとのことですが、読書は好きなのでしょうか。

本はよく読みますね。昔は日本史が好きで歴史書ばかり読んでいたのですが、親に偏るからと注意されて以来、どのジャンルでも読むようになりました。最近老眼のせいか読書スピードが遅くなりつつありますが、月に10冊ぐらいは読んでいます。

読書量を増やしたくて、先日、速読の教室に参加したのですが、訓練すれば、一冊350ページの本なら30分で読めるようになるそうです。「そんなに早く読んだら、もったいないじゃないですか」と質問したら、「早く本を読めれば、その分いろいろ経験できます」という答えが返ってきました。それと、霞ヶ関のエリート官僚などは、それ以上の速さで読むと言って

いました。流石です。

— 休日などは本を読まれているのでしょうか。お休みはどのように過ごされるのでしょうか。

本は会社への行き帰りやちょっと空いた時間に読んでいます。休日は乗馬に出かけたり、釣りに行ったり、ジムでトレーニングをしたりしています。そもそも同じ場所にじっとしていることが好きではないので、乗馬には月に3~4回ぐらい、毎週土曜日から日曜日のどちらかには行っています。早朝から乗馬に出掛け、それからジムに行き、帰宅するのは8時ごろ、休日はそんな感じです。どうして太っていられるのか不思議です。(気が小さすぎて酒席の誘いを断れないからか?)

それと最近はゴルフが復活しました。実は5年前に無駄な力でぶんぶん振り回したせいで、ゴルフ中に脱臼してしまい、それに代わって乗馬を始めたのに、性懲りも無くまた始めてしまいました。

— お仕事も休日も精力的に取り組まれていることと思いますが、これからの益々のご活躍ご発展を期待しております。

乗馬を通し、優しい目をした馬に癒される

乗馬は種目としては障害という競技に取り組んでおり、東武動物公園の近くにある乗馬クラブに通っています。乗馬の魅力は何かというと、1つは馬に癒されることです。馬も人を見ているようで、隙を見せると、蹴飛ばしたり、かじろうとする馬もいるのですが、なついている馬は身をすり寄せてきたり、優しい目をしてこちらを見つめたり、とてもかわいい生き物です。

乗馬クラブに通うようになって驚いたことがあります。意外とこの業界に乗馬をやっている人が多かったことです。話をすると、実は乗馬をしているとか、偶然に同じ乗馬クラブに通っていたという話を聞いたりし、こんなにいるものかと改めて思いました。